

記 録

## 岡山県におけるホンドノレンコウモリ (翼手目, ヒナコウモリ科) の確認記録

岡山市 山田 勝  
矢掛町 江木 寿男

Records of *Myotis nattereri bombinus* (Chiroptera, Vespertilionidae) in Okayama Prefecture

Masaru YAMADA, *Okayama-City*  
and  
Hisao EGI, *Yakage-Town*

キーワード：ねぐら, 洞窟, 暗渠.

### はじめに

ホンドノレンコウモリ *Myotis nattereri bombinus* (Thomas, 1905) は, 日本では, 北海道, 本州, 四国, 九州, 口永良部島に分布するが, 現在15都道府県で報告されており, 採集地点は20か所程度とされている。洞穴性のコウモリで, 自然洞窟や人工洞 (廃坑, 横坑, 防空壕), 隧道の天井の「くぼみ」を利用する (船越, 2011)。本種の昼間の隠れ家は洞穴で, 数十頭で群れるが, 単独で見られることもあり, 樹洞も利用するようである。家屋内に繁殖集団が作られることも知られている。日没後に出洞して採餌, 日の出前に洞穴に戻る。前田 (2005) によれば, 採餌は森林中のおもに低層で行われ, 飛翔する昆虫類を捕食していると考えられている。

岡山県内での本種の記録は, 環境省のホームページ上にある「野生鳥獣の保護及び管理」中の「平成15年度鳥獣統計」へ4個体産地不明の捕獲記録がある (環境省, 2003)。それ以外に確実な記録があるかどうかは定かではないが, 今日まで本種の記録が少ないことは確実であり, 「岡山県版レッドデータブック2009」 (小林・川原,

2010) では情報不足に選定され, 環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に選定されている (環境省, 2015)。今回, 筆者らは県内2か所でホンドノレンコウモリを確認することができたので, その確認概要を報告する。

### 確認概要

今回, 図1に示すように新見市で1頭, 真庭郡新庄村で1頭のホンドノレンコウモリが確認された。以下地点別に詳細を述べる。

#### ①新見市での確認状況

2017年5月5日午前10時, 新見市土橋の自然洞穴内天井部のくぼみ (地上高約4m) で本種と思われる1個体を目視で確認した (写真1)。標高は376mで周辺環境は山間集落近くの混交林であった (写真2)。当時の気温は12.5℃, 内部の気温は13.5℃であった。本個体がとまっていた場所は手の届かない高さであったため, 捕獲はアルミ製折りたたみ梯子を利用し, 手捕りにより行った。各部位の計測値は, 前腕長40.35mm, 頭胴長53.23mm, 尾長36.04mm, 耳介長15.77mm, 耳珠長10.32mm, 下腿長17.77mm, 翼開長約240mm, 体重7.5g, 性別は明らかな陰茎が認められたため雄と判断された。側膜は外足指の基部につき, 尾膜後

連絡先: m-s-yamada@mx31.tiki.ne.jp

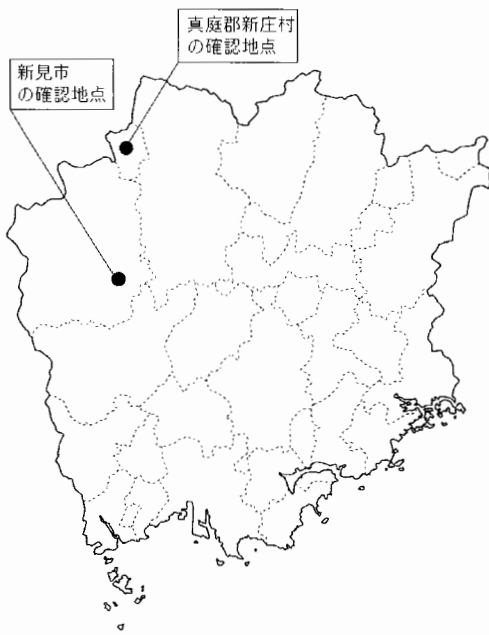


図1. ホンドリレンコウモリの確認位置図.

縁の尾端周辺に、縄暖簾のように細毛が列生することが認められ、さらに、耳珠は尖っており、目立って長いとされていることからホンドリレンコウモリと同定した（写真3～9）。採集標本は倉敷市立自然史博物館へ収蔵・保管されている。

## ②真庭郡新庄村での確認状況

2017年10月1日12時30分頃、真庭郡新庄村土用の道路下に河川支流が通っている暗渠内天井部の小穴で、本種と思われる1個体を確認した（写真10）。標高は650mで周辺はスギ林で囲まれていた（写真11）。各種計測器具を持たなかったことから詳細なデータは得られなかったが、側膜は外足指の基部につき、尾膜後縁の尾端周辺に、縄暖簾のように細毛が列生し、耳珠は尖っており、目立って長いことが認められたことから、ホンドリレンコウモリと同定した（写真12～15）。明らかな陰茎が認められたため雄と判断された。

## まとめ

筆者らは、2004年頃から細々と本種が生息しているような自然洞窟や人工洞穴を調査してきたが、これまで本種は確認できていなかった。今回2か所で確認記録が得られたことから、今後も精力的な調査を行って県内の分布状況を明らかにしたい

と考えている。

また、本種は生態的にも未解明の部分が多く、県内の繁殖状況等についても全く不明である。本種の保全について本稿で適切かつ具体的な提案をすることはできないが、大規模な森林伐採による林相変化や営巣木となりそうな大径木の減少は、コウモリ類を含めた多くの小動物に少なからずインパクトを与えることは間違いないものと思われる。何らかの配慮が必要と考える。

## 謝 辞

本調査を進めるにおいて、新見市域での貴重な現地情報と、ご多用のなかわざわざの現地案内と、発見のきっかけをいただいた新見市草間在住の杉秀樹氏、さらに現地調査で多くのお力添えをいただいた岡山市在住の塩見宅栄氏、赤磐市在住の橋本智明氏、標本を収蔵・保管していただいた倉敷市立自然史博物館の方々に感謝の意を表するとともに記して深くお礼申し上げます。なお、今回の捕獲については事前に環境省の捕獲許可（平成28年度環国地野許第1607153号、平成29年度環国地野許第1705108号）を得て行っており、許可申請においてお世話になった環境省の関係者の方にも深くお礼申し上げます。

## 文 献

- 船越公威, 2011. ノレンコウモリ. コウモリ識別ハンドブック（改訂版）. 50-51. 文一総合出版, 東京.
- 小林秀司・川原啓路, 2010. ノレンコウモリ. 岡山県版レッドデータブック絶滅のおそれのある野生生物（動物編）2009, p.34. 岡山県生活環境部自然環境課, 岡山.
- 環境省, 2015. 環境省レッドリスト2015の公表について（哺乳類）: 環境省報道発表資料.  
<http://www.env.go.jp/press/files/jp/28083.pdf>
- 環境省, 2003. 野生鳥獣の保護及び管理: 平成15年度鳥獣統計情報,  
<https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs2/h15/06h15tou.html>
- 前田喜四雄, 2005. ノレンコウモリ. 日本の哺乳類（改訂版）, p.43. 東海大学出版会, 秦野.



写真1. 洞穴内のくぼみへねぐらをとる（新見市，2017年5月5日）。



写真5. 翼開長は約240mm（新見市，2017年5月5日）。



写真2. 自然洞穴下部（新見市，2017年5月5日）。



写真6. 腹面の毛は白い（新見市，2017年5月5日）。



写真3. 尾膜の尾端周辺に縄襖簾様の細毛が列生（新見市，2017年5月5日）。



写真7. 陰茎が認められる〈オス〉（新見市，2017年5月5日）。



写真4. 側膜は外足指の基部につく（新見市，2017年5月5日）。



写真8. 尾膜中央の血管はわん曲している（新見市，2017年5月5日）。



写真9. 耳珠は尖っており、目立って長い（新見市，2017年5月5日）.



写真13. 側膜は外足指の基部につく（真庭郡新庄村，2017年10月1日）.



写真10. 真庭郡新庄村で確認された個体（真庭郡新庄村，2017年10月1日）.



写真14. 耳珠は尖っており、目立って長く、陰茎も認められる（真庭郡新庄村，2017年10月1日）.



写真11. 真庭郡新庄村での生息環境〈スギ林〉（真庭郡新庄村，2017年10月1日）.



写真15. 背面（真庭郡新庄村，2017年10月1日）.



写真12. 尾膜後縁の尾端周辺に縄暖簾様の細毛が列生（真庭郡新庄村，2017年10月1日）.